

希望の丘



気仙沼市立九条小学校
校長室だより
令和5年7月18日
NO.4
校長 白倉 彩枝子



もうすぐ夏休み…学びの場は家庭・地域へ

今年の入学式のことです。

式辞の中で、楽しい小学校生活を送るためには、「あいさつをすること」と「命（いのち）を守ること」が大切だとお話ししました。頭文字をとって「あい（愛）」の約束です。「あいさつをすること」について話している際に、1年生の子供たちと、ちょっと面白い掛け合いがあったので紹介します。

私：「それでは、校長先生とあいさつの練習をしましょう。校長先生の後に付いて言います。はじめは、『行ってきます。』どうぞ。」

※私の後に付いて「行ってきます」のあいさつを期待していたところ、子供たちは、元気よく…

1年生：「いってらっしゃい！」

私：（えっ？まさかのあいさつ返し！ならば、あいさつの言葉を代えてもう一度。）

「では、次です。後に付いて言いますよ。『いただきます。』どうぞ。」

※少し間が空いたものの、子供たちは、さらに元気よく…

1年生：「召し上がれ！」

※子供たちの巧みなあいさつ返しに、体育館には温かい笑い声が広がりました。

式辞では、あいさつの練習を兼ねて、私の後に付いて、繰り返すことを求めましたが、子供たちは自然に、あいさつを返してきました。「いただきます」に対して、「召し上がれ」と返ってきた時は、驚くやら感心するやらでした。幼稚園や保育所での指導はもちろん、家庭でも、あいさつのやり取りが行われている様子が伝わってきて、ほほえましい気持ちになりました。来賓の方からも、「1年生の子供たち、とても立派でしたね。あいさつをしっかりと返していて、びっくりしました。」とお褒めの言葉をいただきました。

宮城県では、幼児教育推進指針として「みやぎの学ぶ土台づくり」を提唱しています。幼児期を生涯にわたる人格形成の基礎を培う時期『学ぶ土台づくり』の時期として捉え、小学校に入学する時期までに、子供たちの豊かな心情や学ぼうとする意欲、健全な生活を送る態度などを身に付けることを目指す取組です。具体的な取組として、「親子でのふれあいのすすめ」（詳細裏面掲載）「運動・食事・睡眠のすすめ」「心動かされる体験活動のすすめ」が挙げられています。特に「親子でのふれあいのすすめ」では、「優しく見つめておしゃべりしましょう」「子供と直接触れ合って遊びましょう」「絵本を一緒に楽しみましょう」「十分なスキンシップをとりましょう」などの提案がされています。情緒の安定はもちろん自己肯定感を持たせ、言葉の理解を促すなど、とても大切な取組です。そして、それは、入学前の子供と発達段階や実態は大きく違うものの、小学生に対しても、親として家族としての、よりよい接し方の「心構え」であり「ヒント」であると思います。



さあ、もうすぐ夏休み。学びの場は、家庭や地域へ移ります。コロナ禍による制限や制約のない、4年ぶりの夏休みになります。家庭や地域で、夏休みだからこそできることを、子供たちと共に大いに楽しんでいただくとともに、励ましの声掛けや見守り等々、どうぞよろしくお願ひいたします。8月24日（木）、笑顔いっぱいの子供たちと会えることを楽しみにしています。

